



十四山支店管内
丹羽さん宅

えいすけ
丹羽 瑛祐 くん(3才)
かなこ
香菜子 ちゃん(5ヶ月)

父 政裕さん
母 翔子さん

両親から一言

元気に育ってね♪

わが家の
アイドル

目次

- 02-03 生産者紹介/わが家のアイドル
- 04-05 特集【JAあいち海部の公式LINEには
お得な情報や便利な機能が盛りだくさん♪】
- 06-07 特集【旬の冬野菜でヘルス&ビューティー】
- 08-09 News&Topics
- 10-11 チャレンジ家庭菜園/家庭菜園Q&A
- 12 おしえて! JAあいち海部の部署のコト
シェフ永井のオススメレシピ
- 13 チャレンジクイズ/家族の一員/お便り紹介
- 14-15 海南病院だより
- 16-19 おしらせ
- 20 自己改革の取り組み/営農ミニ情報



未来の
日本を創る

農

農業
担い人

THE FUTURE of
JAPAN CREATE

PROFILE

たなか たかのり

田中 隆典 さん

TANAKA TAKANORI

41歳

愛西市赤目町



イチゴの栽培では葉を食べるヨトウムシなどの害虫に注意が必要です。放置をすると被害が圃場全体に広がるため、定期的に見回りを行い苗の状況を確認します。

受け継いだ農業を続けていく

愛西市でイチゴやレンコンの栽培を行う田中さんは、27歳の時に地元で農業をしていたお父様のもとで就農し14年目を迎えます。3年前にお父様が亡くなり、事業を引き継いでからは作業の段取りや経営のことも意識するようになったと話します。

現在はお母様と二人で作業をしていますが、今後は人手不足にどう対応していくかを考えなければいけなくなったと話す田中さん。農業は自由に時間が取れるように思われがちですが、何もしていない日というのは意外とありませぬ。需要期には次々とイチゴが実るため収穫に追われ、それ以外の時期でも台風が来る季節は風で倒れないようにビニールを外して備える必要がありますし、収量や品質を確保するには苗の時から丁寧に世話をしなければいけません。新しく人を雇い入れることや、省力化に向けた機械の導入なども視野に入れながら、毎年の収量や販売高を増やしていくために、技術や知識を磨いていきたいと話します。

将来に向けて持続可能な経営の形を目指す田中さんですが、来年には新しい取り組みとしてイチゴの早期栽培に挑戦します。イチゴは夏場に苗を冷やすことで通常12月末ごろから始まる収穫を1か月以上早めることができ、需要が高まるクリスマスまでに合わせて出荷することで高単価での販売が期待できます。「早期栽培には以前から関心がありましたが、年末はレンコンの需要期と重なりますし、なによりも苗を冷やす夜冷機の導入にコストがかかるためなかなか決心が付きませんでした。今回は引退する地元の生産者の方から機械を譲り受けることができたので栽培に挑戦しよう」と決断しました。

最後に「多くの方が喜んで食べてくれるのがイチゴの魅力です。これからも頑張っておいしいイチゴを届けていきたいです」とメッセージをいただきました。